








## 法教育 実施報告

実施期日	平成 27 年 10 月 20 日 (火)
実施場所	武蔵村山市第 9 小学校
授業時間	90 分
テーマ	職業選択の自由 資格と許可制度
対象クラス	6 年 1 組 6 年 2 組
授業の狙い	職業を題材として憲法の基本と、法律の「目的」を学ぶ。
授業のやり方	(対話を取り入れた) 講義形式とグループワーク。

	<p>なりたい職業の発表。何になりたいたのか、何をすべきなのかを発表してもらう。</p> <p>職業を自由に選ぶということ自体が、実は憲法（国の基本ルール）で保障されていることを説明する。</p>
<p>例外1 資格(免許)制度 (個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>うまくできる知識や技術がない人が行くと社会全体にとって危険な仕事がある。</li> <li>たれもが自由に医者になって手術を出来るとしたら、どんなことがおこるだろう。</li> <li>みんなの安全を保証するために、高い能力がある人以外には、その仕事をできないようにするのが資格(免許)制度です。</li> </ul> 	<p>ただ、国が保障している職業選択の自由にも例外として資格と許可の制度があることを教える。</p> <p>医者やレストランの話为例に挙げて解説する。</p>
	<p>グループワークで、どの職業は資格制度で、「業務独占（無資格の人はできないように）」をすべきか。なんでそういう法律を作らなければならないのか、法律の「目的は」ないか議論してもらい。発表してもらった。</p>
	<p>解説を行い。どのような目的で法律が作られたのかを、なぜ「保育士」は無資格でも仕事ができるのか。「法律で縛ることのマイナス」について説明した。</p> <p>名称独占とすることで、各自の判断に任せることを、調理師免許を例にして説明した。</p>

<p>どっちのお店に許可が必要か考えよう。</p> <p>・自動車屋(カーディーラー) 「自動車を売ったり買ったりするには許可が必要」 ・ゲーム制作会社 「自分で作ったゲームを売るのは許可が必要」</p> <p>・どんな目的や理由があるか</p> 	<p>許認可のグループワークを行う。</p> <p>各班で、許可が必要な仕事とそうでない仕事について考えてもらい、発表してもらった。</p> <p>ゲームの年齢制限や審査についての話がでたので、法律で縛らなくても大丈夫な社会を自主的に作るために、自主規制をしているから、大きな社会問題が起きていない。だから法律で縛る「目的」がないという説明をした。</p>
<p>免許や資格が不要な仕事</p> <p>・スポーツ選手 ・ファッションデザイナー ・研究者・科学者・昆虫博士 ・声優・漫画家</p> 	<p>事前にアンケートをもらっていたので、クラス全員の将来の夢に関して、法律上現在規制がかけられているかどうかを説明した。</p> <p>法律的に資格が不要であることと、現実的に何の勉強をしなくても仕事ができるわけではないことも説明した。</p>
<p>行政書士の仕事は資格が必要か？</p> <p>●行政書士の仕事とは？</p> <p>・営業許可などの申請手続きを皆さんの代わりにやる。</p> <p>・遺言や契約書など、皆さんの権利などに関する重要書類を作る。</p> 	<p>最後に行政書士に資格が必要かを考えてもらい、資格が必要な理由を解説した。</p> <p>将来何か職業につきたいと思ったら、行政書士に相談できると行政書士をアピールした。</p>

## まとめ

今回はグループワークを取り入れたことで、児童も楽しんで授業に参加したと思われる。難しいことを法律的に正確に説明しようとする、ついでこられない児童も出てきてしまった。難しいことを簡単に、かつあまり不正確にならないように説明をすることは非常に難しかった。それぞれのクラスの将来の夢を事前に聞いて題材にしたのは集中力を保つ意味でもよかったように感じた。

感想では一名からは「難しく理解できなかった」という意見もでたが、「難しいことをわかりやすく教えてもらえた」という意見が複数もられた。